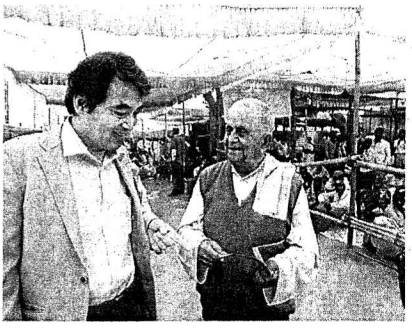
夢童

菅波　茂

インドの地鳴りのようなエネルギー

インドのヒンズー教の真髄を経験したので報告したい。マハトマガンジーは何故に無抵抗主義で英国からの独立を達成できたのか。何故にガンジーは粗末な衣服を身に着けていたのか。何故に歩いたのか。すべてはヒンズー教の教義にある。ヒンズー教は、男性は家族のためにしっかりと働くと共に、この世の快楽を積極的に認められている。同時に金銭至上主義でもある。ただし、男性は50歳を過ぎると何もかも捨てて身一つで森の中に入る。そこで餓死、病死あるいは行き倒れになろうが誰の責任でもない。インドの聖者とはこの森に入った人であり、一か所にとどまらず彷徨する人である。ガンジーの風体はまさに聖者の如くであり、抗議運動のために全国を歩いて行進した。驚くべきことは、百万人からの人々がこの行進に参加する事実である。地鳴りのするエネルギーの出現である。

2011年11月12日から3日間、インドのビハール州にあるブッダガヤに滞在した。ブッダガヤは釈迦が悟りを開かれた地である。29年前から毎年11月になるとインドの北西部にあるグジャラット州から30名の眼科医と350名のボランティアが、世界遺産であるマホボディ寺院の境内にあるガンジーアシュラムの医療センターで、白内障手術の医療ボランティア活動を25日間実施する。これに地元のボランティアの350人が協力する。医療センターには6つの手術室があり、それぞれの手術室には4つの眼科手術ベッドがある。1日に1千人の貧しい村人の白内障手術が実施される。25日間で合計2万5千人である。1人の患者に4、5人の家族が付き添う。インドの習慣である。毎日5千人からの村人がブッダガヤにあるチベット寺院の簡易宿泊所にお世話になる。そこでは5千人の食事を1日に3回提供する。驚くことなかれ、全予算が600万円である。あとはすべてボランティア力である。これを統括するガンジーアシュラムの指導者は91歳の独身の老人である。ガンジーの高弟の弟子である。住まいも身なりも質素にして簡素である。40キロ離れた森の中にも貧しい人々のためにガンジーアシュラムを運営している。ガンジーアシュラムとはガンジー思想に共鳴する人々の生活共同体である。



ガンジーアシュラムの91歳になる指導者（右）と

ビハール州はインドで最も貧しい州である。医療設備も貧弱で医療技術も高くない。このブッダガヤに子どもの心臓手術ができる医療施設建設が私の人生の最大の夢である。最初にブッダガヤを訪れたのは42年前の22歳の医学生の時だった。このブッダガヤに2年前にAMDAピースクリニックを菩提一心寺の中島妙江住職のご尽力を得て実現できた。子どもの心臓手術施設建設については岡山大学の小児心臓外科医である佐野俊二教授の賛意をいただいているのが心強い。台湾の心臓外科医グループも医療ミッションを考えてくれている。AMDAインド支部、ネパール支部とインドネシア支部の応援も可能である。

21世紀はブラジル、ロシア、インド、中国そして南アフリカを加えたBRICsの時代と言われている。東日本大震災は人々の絆の大切さを思い出させてくれた。しかし、インドのヒンズー教に基づいた人々の地鳴りのようなエネルギーは独特の存在である。この人々の絆は何なのか。ブッダガヤに建設する子どもの心臓手術のための医療施設と地鳴りのするエネルギーとの接点があればと願う日々である。